

新聞新報

2007年(平成19年)7月19日 木曜日

柏崎の木造 全壊率5%

新潟県中越沖地震で柏崎市の木造建物の全壊率が5・1%にのぼったことが18日、筑波大の境有紀准教授(地震防災工学)の現地調査でわかった。能登半島地震の石川県輪島市での被害と同程度の割合という。「キラパルス」と呼ばれ、建物の倒壊を招く周期1秒強

の成分が強い地震波に襲われたためとみられる。

今回の地震で震度6強を記録した柏崎市で境准教授

を境准教授が解析したところ、市内に設置していた地震計から半径200m以内を歩き、木造の住宅や店舗を調査。その結果、178軒中9軒が全壊していた。

境准教授は「地盤が軟らかいことで周期が1秒以上の波が強く表れた。住宅を建てる際には地盤条件を優先的に考慮する必要がある」と話している。

土蔵倒壊

新潟県柏崎市東本町で18日午後3時ごろ、地震で傾いていた民家の土蔵が「バリバリ」と大きな音を立てて崩れ落ち、隣の民家を直撃した。

土蔵は倒壊直前、「ミシ、ミシ」と音を立てていた。崩れ落ちて土煙が巻き上がるのと、近くにいた住民ら約30人から「あー」と落胆の声が上がった。

① 倒れる直前の土蔵。土煙を上げて倒壊し、隣家に直撃した瞬間(18日午後、柏崎市東本町で) 甲斐史子撮影

